

〈解答〉

応	も	に	い	手	書	文	コ
じ	ら	は	う	書	き	字	ン
て	う	、	良	き	の	も	ピ
手	と	心	さ	の	文	読	ユ
書	う	が	が	文	字	み	ー
き	れ	こ	あ	字	を	や	タ
の	し	も	る	に	書	す	で
文	い	っ	か	は	く	い	の
字	も	て	ら	、	こ	の	文
を	の	い	で	書	と	、	書
書	で	る	す	。手	必	大	作
く	す	よ	う	の	要	変	成
機	。私	に	手	人	だ	は	、
会	は	感	書	柄	と	保	存
を	、	じ	き	の	考	利	で
持	こ	ら	の	文	え	す	。訂
ち	れ	れ	文	字	ま	し	正
た	か	、	で	が	す	。私	が
いと	ら	自	書	に	。な	は	容
思	も	筆	か	じ	ぜ	は	易
い	、	の	れ	み	な	、	で
ま	必	手	た	出	ら	、	手
す	要	紙	手	る	ら	、	手
。	に	を	紙	と	、	手	、

〈解説〉

- ① 原稿用紙の使い方は、句読点や記号も含めて、一マス一字が原則。だが、段落の最初は必ず一マス空ける。また、行の最初に句読点は打たず、前の行の最終マスに文字とともに書く。
- ② 文体は、「〜である。」「〜だ。」「〜です。」「〜ます。」などの敬体表現のどちらかに必ず統一すること。
- ③ 主語・述語や修飾・被修飾の係り受けにも十分注意すること。「こめる」は他動詞なので、「心が」ではなく、「心を」でないとおかしい。「心が」であれば、自動詞の「こもる」と対応させなくてはいけない。もしくは、受け身の助動詞を用いて「こめられる」と対応させても構わない。